

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

2013北信越高校スキー研修会のお誘い

今年で5年目を迎える「北信越高校スキー研修会」の紹介です。期日は3月2日(土)～3月3日(日)、場所は今年度のインターハイの会場になった平標山と苗場山(神楽ヶ峰)での開催となります。

この研修会の目的は、「北信越地区において登山活動を行う教職員を対象に、スキーを用いた登山行動を通して積雪期登山技術の研修を行う。また、雪山で活動するにあたって必要とされる、雪崩についての正しい知識とマネジメント・スキルについて研修を行う。」というものです。今年も石川県根石さんが計画を立ててくださいました。根石さんから計画が届いていない方で、参加希望をされる方は下記必要事項を添え、大西まで返信してください。北信越に限らず、他地区の方も含め多くの高校関係者の皆さんの参加を歓迎いたします。

【日程概要】

3月2日(土) 7:00 集合(松手山登山口) 7:30 登山開始 10:50 ヤカイ沢経由平標山
※状況を見て、ヤカイ沢を滑って降りるか、頂上より西ゼンを滑り土樽へ(前もって、車を回しておく必要有)どちらかでいければと思います。

[所要時間]ヤカイ沢コース約1.5時間西ゼンより土樽3.5時間17:00頃宿泊場所へ到着入浴・食事・懇親会など

3月3日(日) 7:30 頃朝食後出発 8:00 みつまたスキー場下駐車場 8:30 駐車場発
※ロープウェイ・リフト・ゴンドラ計5本を乗り継いで最上部へ神楽峰方面へ登り、田代方面へ滑降。もしくは、中尾根を2～3回してもよい。14:00頃解散

【申込み】根石さんのアドレスをご存知の方は直接根石さんまで。かわらばんではアドレスをオープンにできないので、不明の方は大西まで、下記事項を明記のうえ、22日までにお願いします。

【申込みフォーム】

[氏名] [氏名ふりがな] [性別] [年齢] [血液型(ABO・Rh+)] [山岳保険加入の有無] [現住所] [電話番号] [携帯電話番号] [コールサイン] [緊急連絡先: 緊急時に連絡の取れる電話番号と、留守宅で連絡を取るべき人を記入してください(例: 妻)] [ビーコンの有無および機種名] [E-mail] [所属学校名] [その他連絡事項: 必要があれば記入してください]

長山協「山のセミナー」

この時期は毎週末、何らかの山に関わることがあり、極めて充実している。少し前の話だが、2月3日には、長山協の「山のセミナー」が行われた。これは座学であったが、昨年度長山協会員が行った国際登山(マッキンレー、ムスターグアタ)やトレッキング(ネパールでの植林ボランティア)の報告、一昨年のヤズィックアグル峰登山の時にも適切な助言をしていただいた気象庁の西島昇さんの気象に関する講演、国体山岳競技の

トレーナーで長山協医科学委員の服部徹さんによる登山者（長山協会員）へのアンケート調査のまとめなど高校山岳部の指導に十分活かせる盛りだくさんの内容で行われた。

ことに興味深かったのは西島さんの報告だったが、昨年5月の小蓮華での遭難を例に気象の読み方のヒントを教えていただいた。あの遭難が「疑似好天」という形で世間には紹介されてきたが、西島さんの見方は少し違うという点が現場に居合わせたものの一人として僕には興味深いものだった。さらに、もっと目からうろこが落ちた気分させられたのは、気象庁の発表する「天気概況」をしっかりと読む（まさに地図を読むように）だけで、これから起こりうる気象のシナリオをかなり正確に読み取ることができることを教えていただいたことである。具体的には0時から3時が「未明」、3時から6時が「明け方」、6時から9時が「朝」とか、「時々」と「一時」の使い分け、また風ならば「やや強く」は10m/s以上15m/s未満（風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。）、「強く」は15m/s以上20m/s未満（風に向かって歩けない。転倒する人も出る。）を示しているといった具合に、感覚的な言葉を使いながらも、実はそこではかなり明確かつ具体的な情報を示していることを知った。（これらの定義は気象庁のHPに天気予報に出てくる言葉としてアップされている）実際に天気概況を書いている西島さんだからこそ、そこに込めたココロ、それによって伝えなかったメッセージを語るすることができるのだが、僕らは普段は、何気なくわかったような気になって実はその重要なポイントを見過ごし、聞き逃していたのである。・・・海外登山のワクワクする話をはじめ、学術的な気象の話、医学的見地からの登山者のトレーニングの話と、とてもお得な一日だった。惜しむらくは、高校関係者の参加が今滝、松田、大西の3人だけだったことだ。

日山協「ジュニア情報交換会」

2月16日に東京のオリンピック記念青少年総合センターで日山協の標記会議が開催され、以下の発表が行われた。項目の羅列となってしまうが、他県の実践として紹介する。

鹿児島：「少年少女登山教室」と「かごしまクライミング少年団」

教室・・・対象は小4から中2、1泊2日で講話、クライミング、登山

少年団・・・2009年にクライミング少年団を組織、クライミングに加え、登山（沢登り等も含む）も行ってきた。

三重：「少年少女登山教室」小中学生に非日常体験をさせたいという基本コンセプト

対象は小4から中2、2008年から年1回場所を変えながら、実施。

2011年からは愛知岳連と共催することで、参加者も増えた。

埼玉：「秩父夏休み親子自然観察教室」

対象は小中学生、2泊3日で高校山岳部員もサポート。

流しそうめん、テント泊体験、ハイキング、カレー作り、山遊び（水鉄砲・丸太椅子）

日山協：「みんな集まれ！ジュニア登山教室」

対象は小4から中3、3泊4日、今年で3回目、参加9都県（今年度沖縄県の参加者も）年代に応じた指導のあり方を今後研究していきたい。自然・環境への興味から入り、登山へつなげていけるようなカリキュラムをつくる必要性（スロベニアにあるらしい）

山と溪谷社の「日本山岳遺産募金」

本年度は、長山協の活動にも補助していただいたが、次年度からは一括日山協に補助、日山協が分配する形となるとのことだった。